

摂食機能療法学・高齢者歯科学演習

責任者名：植田 耕一郎

学期：前期

対象学年：6年

授業形式等：演習

◆担当教員

植田 耕一郎(摂食機能療法学 教授)

阿部 仁子(摂食機能療法学 准教授)

中山 洵利(摂食機能療法学 准教授)

酒井 真悠(摂食機能療法学 助教)

◆一般目標 (GIO)

学生が要介護高齢者および有病高齢者に対する摂食機能療法の概念を理解するために、リハビリテーションの理念を理解し、摂食嚥下障害の診断法、アプローチ手技、および高齢者歯科医療に関する基本的な知識を身につける。

◆到達目標 (SBOs)

- ・ 要介護高齢者および有病高齢者に対する摂食機能療法におけるリハビリテーションの理念を説明できる。
- ・ 摂食嚥下障害の診断法とその効用・短所を列記できる。
- ・ 摂食機能療法のアプローチ手技を列記できる。
- ・ 高齢者歯科医療に関する基本的な知識を説明できる。
- ・ これからの高齢者歯科医療における課題と社会的ニーズを関連づけることができる。

◆評価方法

・ 成績は定期試験（50%）と平常試験（50%）で評価する。

* 欠席するごとに減点し、欠席が多い場合は定期試験の受験を停止する。

・ 平常試験は講義最終日（6/27の6限）に実施する。試験終了後にフィードバックとして解説を行う。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
植田 耕一郎	月曜日 12:00～13:00 摂食機能療法学講座教授室（本館6階）	ueda.kouichirou@nihon-u.ac.jp	
阿部 仁子	水曜日 12:00～13:00 摂食機能療法学講座医局（本館6階）	abe.kimiko@nihon-u.ac.jp	
中山 洵利	木曜日 12:00～13:00 摂食機能療法学講座医局（本館6階）	nakayama.enri@nihon-u.ac.jp	

酒井 真悠	金曜日 12:00～13:00 摂食機能療法学講座医局（本館 6 階）	sakai.mayu2@nihon-u.ac.jp	
-------	--	---------------------------	--

◆授業の方法

- ・ 1～14回の講義は全て対面授業とする。
- ・ 講義内容の習熟度の確認のため、平常試験及び解説を1回実施する。（日程は「評価方法」を確認のこと。）

【実務経験】

植田耕一郎：脳血管障害患者を主とする有病高齢者に対する歯科における摂食機能療法の第一人者として日本大学歯学部在籍し、一般歯科診療、摂食嚥下リハビリテーションの臨床・教育・研究に従事しています。これまでの経験に基づき、より一層の理解を深めることが出来る講義・演習を行いたいと思います（摂食機能療法科）。

阿部仁子：現在在籍している日本大学歯学部摂食機能療法学講座にて、一般歯科診療、摂食嚥下リハビリテーションの臨床・教育・研究に従事しています。これまでの経験に基づき、学生がより一層の理解を深めることが出来る講義・演習を行いたいと思います。（摂食機能療法科）

中山洵利：現在在籍している日本大学歯学部摂食機能療法学講座にて、一般歯科診療、摂食嚥下リハビリテーションの臨床・教育・研究に従事しています。これまでの経験に基づき、学生がより一層の理解を深めることが出来る講義・演習を行いたいと思います。（摂食機能療法科）

酒井真悠：現在在籍している日本大学歯学部摂食機能療法学講座にて、一般歯科診療、摂食嚥下リハビリテーションの臨床・教育・研究に従事しています。これまでの経験に基づき、学生がより一層の理解を深めることが出来る講義・演習を行いたいと思います。（摂食機能療法科）

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
プリント配布				
教科書 1	脳卒中患者の口腔ケア第2版	植田耕一郎	医歯薬出版株式会社	2015
教科書 2	よくわかる高齢者歯科学	佐藤裕二，植田耕一郎，菊谷武 編集	永末書店	2018
参考書 1	摂食嚥下リハビリテーション第3版	才藤栄一，植田耕一郎 編集	医歯薬出版株式会社	2016
参考書 2	老年歯科医学	森戸光彦，山根源之，櫻井薫，羽村章，下山和弘，柿木保明	医歯薬出版株式会社	2015

◆DP・CP

コンピテンス 1：歯科医師としてのプロフェッショナルリズム

コンピテンス：1-1、1-2、1-4

対応するディプロマ・ポリシー：DP1

コンピテンス 4：歯科医学および関連領域の知識

コンピテンス：4-2、4-3、4-4、4-7、4-8、4-9

対応するディプロマ・ポリシー：DP4

コンピテンス 7：地域社会への貢献

コンピテンス：7-1、7-2、7-3

対応するディプロマ・ポリシー：DP7

◆準備学習(予習・復習)

- ・必ず事前に教科書を読んで、授業内容の目的を理解しておくこと。
- ・講義にかかわる配布資料はあくまで参考とする資料であるため、講義範囲に該当する教科書の内容も合わせて熟読する、講義を受講しながら資料に書き込みをするなど、各自で資料内容の充実をはかること。
- ・授業中のノートテイキングによるノートを利用した復習を行うこと。

◆準備学習時間

授業時間の半分相当の時間を充てて予習あるいは復習を行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

生理学（2年前期）

Medical and Dental English（3年前期）

顎機能治療学（4年後期）

臨床推論の構築（5年後期）

摂食機能療法学・高齢者歯科学演習（6年前期）

◆予定表

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		5.9	5	1. リハビリテーション医学・高齢者歯科学総論 1) リハビリテーション医学の理念 2) 高齢者歯科医療の現場 3) 超高齢社会における歯科医療のあり方 (教1) pp.2-8, 196-209 (教2) pp.2-26, 27-47, 180-190	・リハビリテーション医学における障害の構造について理解する。 ・リハビリテーション医学の理念を理解する。 ・リハビリテーションに関わる職種、職能、多職種協働を理解する。 ・超高齢社会における歯科医師の役割について理解する。	植田 耕一郎	B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の制度 E-5-1) 高齢者の歯科治療

2		5.9	6	<p>2. 成人期の摂食嚥下障害に関わる全身疾患 1</p> <p>1) 摂食嚥下機能</p> <p>2) 脳血管障害</p> <p>(教1) pp.9-30, p.34-52</p> <p>(教2) pp.72-74, 128-132</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床的摂食嚥下機能を理解する。 ・脳血管障害の病態を理解する。 	植田 耕一郎	E-5-1) 高齢者の歯科治療
3		5.16	5	<p>3. 成人期の摂食嚥下障害に関わる全身疾患 2</p> <p>1) 認知症</p> <p>2) 神経・筋疾患</p> <p>3) その他の疾患</p> <p>(教1) pp.58-65</p> <p>(教2) pp.133-144</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パーキンソン病, 認知症等の病態を理解する。 ・異常疾患に特有な摂食機能障害の臨床的所見を理解する。 	植田 耕一郎	E-5-1) 高齢者の歯科治療
4		5.16	6	<p>4. 摂食嚥下の生理学</p> <p>1) 摂食に関わる大脳皮質</p> <p>2) 咀嚼, 嚥下のメカニズム</p> <p>3) 誤嚥の発症機転</p> <p>(教1) pp.9-36</p> <p>(教2) pp.183-186</p> <p>5. 発声と構音</p> <p>(教2) pp.212-223</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先行期(認知期)における摂食行為の多様性について学ぶ。 ・咀嚼, 嚥下が起る生理学的なメカニズムを知る。 ・咀嚼, 嚥下器官の神経学的正常と異常, 加齢について学ぶ。 ・発声と構音機能の解剖と生理を知る。 ・構音障害の診査診断と対応を知る。 	中山 洵利	E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 E-5-1) 高齢者の歯科治療
5		5.23	5	<p>6. 口腔機能の発達</p> <p>1) 乳幼児期の口腔機能の発達</p> <p>2) 発達期の摂食機能障害への対応</p> <p>(参1) pp.14-17</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の摂食嚥下機能の獲得について学ぶ。 ・発達期の摂食嚥下リハビリテーションについて説明できる。 	阿部 仁子	E-5-2)-⑥発達期の摂食嚥下障害
6		5.23	6	<p>7. 口腔機能発達不全症</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔機能発達不全症について説明できる。 	阿部 仁子	E-5-2)-⑥発達期の摂食嚥下障害

7	5.30	5	<p>8. 摂食機能療法に関わる評価方法</p> <p>1) 呼吸, 栄養アセスメント</p> <p>2) ADL (教1) pp.150-151, 155, 193 (教2) pp.81-86</p> <p>9. サルコペニア</p> <p>10. 廃用症候群 (教2) pp.140-141</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸および栄養状態のアセスメント方法について学ぶ。 ・ADLに関わる評価方法を学ぶ。 ・サルコペニア, 廃用症候群の概念を理解する。 	中山 洵利	E-5-1) 高齢者の歯科治療
8	6.6	5	<p>11. フレイルとオーラルフレイル</p> <p>12. 口腔機能低下症</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フレイルとオーラルフレイルの概念と歯科的対応を知る。 ・口腔機能低下症の概念と歯科的対応を知る。 	中山 洵利	E-5-1) 高齢者の歯科治療
9	6.6	6	<p>13. 摂食嚥下リハビリテーションの概念と摂食嚥下スクリーニング検査</p> <p>1) 反復唾液嚥下テスト</p> <p>2) 改訂水飲みテスト</p> <p>3) フードテスト</p> <p>4) 咳テスト</p> <p>5) 頸部聴診法 (教2) pp.191-192</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下スクリーニング検査について理解する。 	中山 洵利	E-5-1) 高齢者の歯科治療
10	6.13	5	<p>14. 摂食機能障害の確定診断</p> <p>1) 嚥下造影検査 (VF)</p> <p>12. 摂食機能障害の確定診断</p> <p>1) 嚥下内視鏡検査 (VE) (教1) pp.85-86 (教2) pp.192-193</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・嚥下造影検査の目的と適応について説明できる。 ・嚥下造影検査の利点、欠点について説明できる。 ・嚥下造影検査の診断方法を説明できる。 ・嚥下内視鏡検査の目的と適応について説明できる。 ・嚥下内視鏡検査の利点、欠点について説明できる。 ・嚥下内視鏡検査の診断方法を説明 	酒井 真悠	E-5-1) 高齢者の歯科治療

					できる。		
11		6.13	6	15. 治療的アプローチ 1) 間接訓練① (教1) pp.90-111 (教2) pp.195-196	・治療的アプローチである間接訓練の考え方を説明できる。 ・間接訓練の目的と手技を説明できる。	酒井 真悠	E-5-1) 高齢者の歯科治療
12		6.20	5	16. 治療的アプローチ 1) 間接訓練② (教1) pp.90-111	・治療的アプローチである間接訓練の考え方を説明できる。 ・間接訓練の目的と手技を説明できる。	酒井 真悠	E-5-1) 高齢者の歯科治療
13		6.20	6	17. 治療的アプローチと代償的アプローチ 1) 直接訓練 2) 舌接触補助床(PAP) 3) 軟口蓋挙上装置(PLP) (教1) pp.84 (教2) pp.195-196 (参1) pp.245-246	・治療的アプローチである直接訓練の考え方を理解する。 ・代償的アプローチである PAP, PLP の目的と適応を説明できる。	酒井 真悠	E-5-1) 高齢者の歯科治療
14		6.27	5	18. 要介護高齢者・有病高齢者に対する口腔ケア 1) 口腔ケアの概念 2) 器質的口腔ケアと機能的口腔ケア 3) 口腔ケアに用いる器具・薬剤 4) 口腔ケアの手技 (教1) pp.90-116 (教2) pp.195	・要介護高齢者、有病高齢者への対応方法を説明できる。 ・口腔ケアの概念を説明できる。 ・口腔ケアで用いる器具、薬剤を説明できる。 ・口腔ケアの手技と注意点を説明できる。	阿部 仁子	E-5-1) 高齢者の歯科治療
15		6.27	6	19. 平常試験の実施、および解説	・第1～14回の講義内容における理解度を確認する。 ・第1～14回の講義内容における理解度を確認し、習熟度の低い箇所の理解度を深めることができる。	植田 耕一郎 阿部 仁子 中山 洵利 酒井 真悠	E-5-1) 高齢者の歯科治療

担当グループ一覧表

グループ名	教員コード	教員名
摂食機能療法科	1872	阿部 仁子
	2157	中山 潤利
	3563	酒井 真悠

